



浦島伝説

令和4年 5月17日

第5号

続ければ楽になり、成果もあがる

最初は難しくても、だんだん楽にできるように!



先週、1学期中間テストがありました。1年生にとっては初めての定期テストでしたが、手応えはどうでしたか。目標としていた点数が取れた人もいるでしょう。一方、一生懸命がんばって勉強したのに思うような結果が出ずに、「自分はダメなんだ」と落ち込むこんだ人もいるでしょう。中には、家で勉強時間を十分に取ることができなかった人もいるかもしれません。

左の図を見てください。みなさんは「学習曲線（ラーニング・カーブ）」という言葉を知っていますか。勉強や運動、習い事など、最初は、とてもできそうにない

とあきらめてしまいそうになるほど難しく、苦しく感じることも、少しずつ学習や練習を続けていくうちに慣れてきて、ある一定の時間努力を続けると、楽にできるようになることです。

昨年度の「浦島伝説」5号で「努力しても成果が出ないと思っている人へ」というタイトルで、次のようなことを書きました。あきらめずに続けていれば、必ず成果が出る時が来ます。

からっぽで透き通っていない花瓶の中に、コップの水を毎日何杯も入れていくとします。その小さなコップの水は、君たちの努力を表しています。1杯、2杯、…。水の注がれる音だけが聞こえています。

さて、この水が花瓶の中にたまっていく様子、努力の水がたまっていく様子は、まったくわからないし、見えません。しかし、毎日こつこつと努力の水を注ぎ続けると、ある日、突然、水はあふれ出します。つまり、努力した結果が目に見えてわかるようになる瞬間がやってきます。もし、花瓶のふちのところまで水が入っているのに、それに気づかず、「今まで一生懸命頑張ったつもりだけど、やっぱり無理だ」と、それ以上努力することをあきらめたら、どうなりますか。あと一杯の水を入れればあふれ出すのに、もったいないことです。

君たちの努力も同じです。目には見えませんが、必ず水はたまっています。あふれ出すまで、あきらめずに努力の水を入れ続けることが大切です。

みなさんは、下の図 A のように、努力に比例して成果が徐々にあがっていくと思っていませんか？ しかし、現実には図 B のように、「できない」、「できない」、「できない」・・・が続いていて、あるとき急に「できるようになる」のです。ただし、何もしないで突然に「できるようになる」のではなく、「できない」と思っていた間に続けた努力が見えないけれど力となって蓄えられ、あるときそれがあふれ出す。そのときに、「できるようになる」のです。

この「できない」期間、言い換えると成果が目に見えない・実感できない期間に、「自分はダメだ」と思い込んでしまい、努力をやめてしまうことが多いのです。実に、もったいないと思いませんか。

